

# 人感センサーで高齢者見守り

高齢者の孤立死を防ぐうと、恵那市笠置町の住民ボランティア組織「みまもり笠置『ほっと君』」が四月、人感センサーによる見守りを始めた。感知した住人の挙動回数をインターネットを通じて端末に表示し、安否を確認する。

(田中富隆)

対象は独居の八十九十代で、近くに親族がない町民。二月半ばから一ヶ月で、加入した十五戸の居間や出入り口など四ヵ所程度にセンサーを付けた。住人別に作られた端末の表には、動きを検知した回数が一時間ごとに送られ、一度でも動いた時間帯の欄は青くなる。メンバーは拠点の「やすらぎ荘」にあるパソコンやタブレットで定期確認し、動きが長時間見られ

ない場合は訪問する。町内の高齢化は深刻で、メンバーの調査によると約四百五十戸のうち六十戸近くが独居世帯。

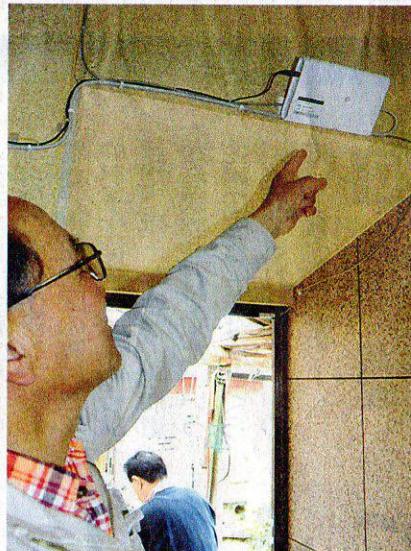
ここ数年で数件の孤立死

があり、民生委員らの巡回でも防ぎ切れなくなつたという。

笠置町まちづくり委員会事務局長の元会社員藤井敏美さん(六六)、地域創生部会長の自営業遠藤吉信さん(六四)らが、公田町団地(横浜市)の人感セ

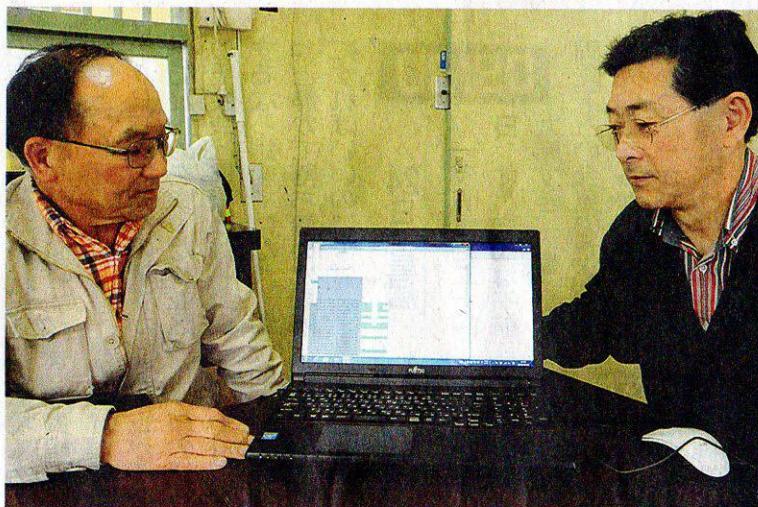
ンサーによる見守りを知り、昨年一月に視察。地元でも取り入れようと昨年四月、県地域支え合い体制づくり事業費の補助四百五十分円を受けて準備を始めた。モニター募集のパンフレットを全戸配布し説明会も開いたが、応募はゼロ。二人は各戸を回りシステムの有効性を説明したところ、予定の十五戸が集まった。利用料は関係者と交渉し、回線使用料九百円(回線既設の住民は無料)、ほっと君の管理費五百円の月額一千四百円に収めた。ほっと君は昨年十一月、遠藤さんを代表、藤井さんを副代表に発足し、賛同する住民十一人が加わった。遠藤さんは「システムは実情に合わせて進化させ、将来は利

用者の親族が見守れる形にしたい」、藤井さんは「地域のつながりがあるうちに安心して暮らせる町をつくり、若者にも住んでほしい」と話す。



加入者宅の勝手口付近に設置されたセンサー。  
1. 住民は「特に気にならない」と話す

## 恵那のボランティア 独居の15戸 安否確認



やすらぎ荘の端末で安否を見守る遠藤吉信さんと藤井敏美さん=いずれも恵那市笠置町で